

関係 団体	本取組みについてのご意見・ご感想をお聞かせください（抜粋）
小学校	<p>取組があることにより、どういものが環境だとかを絵本でわかりやすく伝えられ、大人も子どもも一緒に環境について意識することができてよいと思います。よみきかせサークルにとっても、これを機に環境絵本について学べる機会にもなっています。</p>
	<p>図書館支援員の先生に環境の本を紹介してもらい、その中から学級に持ち帰って読み聞かせをした。1年生なので「環境」といってもわかりにくいですが、この本の中でおばあさんが水や電気、ごはんつぶまで「もったいない」と節約するのがとてもわかりやすく楽しく読めてよかったです。</p>
	<p>図書館の企画で6月を環境月間、読書月間として、SDGs・環境・エコの本を手にとりやすくした。「私たちが地球を守るためにできること」を全校児童に考えてもらった。</p>
	<p>コロナ禍での環境月間活動だったので例年ある保護者の読み聞かせはありませんでした。密を避けるため1クラスずつ図書館での読み聞かせを行いました。地球環境を守るための取組について話をしました。今、地球の置かれている状況を知り、自分たちがどのように行動しなければならないのかを考えるきっかけ作りのため、環境に関する本のシールラリーを行いました。環境について興味を持つ子どもが増えました。</p>
	<p>6月は環境月間という取組みがすっかり定着し、読み聞かせの新学期スタートの時期と重なるのですが、一冊は環境を意識した選書をしてきています。以前は、環境といえば「もったいないばあさん」を選ばれる方が多かったのですが、近年は低学年では自然や生きものの本を通じて豊かな気持ちを育み、高学年ではプラスチックゴミなど、より具体的なテーマを投げかけるなど、ボランティアさんの意識の高さを感じます。アンケートでは、どの方も「きっかけになってほしい」という思いを書かれていました。</p>
	<p>環境の本を図書館にコーナーを設置して配置した。また、1学期の読書期間中に環境の本を読むわくを作り、全校に呼びかけた。高学年を中心に興味を持つ児童が増えているので、毎年継続して取り組むとよい。</p>
	<p>絵本の読み聞かせをすることにより、低学年の児童にも環境について興味を持たせることができた。6月に行ったブックフェス(図書館祭り)のクイズに環境に関することを入れたことで児童生徒への啓発にもつながったと思う。毎年、継続して行うことが大切だと思う。</p>
中学校	<p>図書館内で環境に関する本のコーナーを設置し、貸し出しを行った。また、図書委員さんが学年ごとに分かれ環境に関する本を借りてほしいということでポスターを作成し、各学年の階段の踊り場に掲示した。普段あまり手に取ってもらえない本だが、コーナーを設置することで何冊か読んでもらった。</p>
	<p>中学3年生社会科公民の授業として上記図書の読み聞かせを実施。教科書に記載されているSDGsについて理解を深めることができた。「SDGsがなぜ必要なのかが分かった。自分にできることから取り組んでいきたい」等の感想が生徒から出された。</p>
	<p>5月30日の「ゴミゼロの日」と6月の環境月間について説明とあわせて、関連本の紹介と読み聞かせをしました。私達の生活に大きく関係することなので、これからも機会をつくって本を紹介しながら環境について一緒に考えていきたいと思っています。</p>

公立幼稚園	<p>毎日、子供たちに読み聞かせを行うことができた。絵本を読み聞かせたことで、感受性が豊かになったり環境について考えたりすることが出来た。「もったいないばあさんがくるよ」といって食べ残しを気をつけたり、水道の水を節約する姿も見られたので、環境ブックの読み聞かせ運動は終わるが引き続き読み聞かせやコーナーの設置はしていきたいと思う。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の子どもたちは、生き物にとっても興味があり、虫を育てることを楽しんでいる。そこで、コーナーを設置し、意欲的に絵本や図鑑に触れられるように配慮した。子どもたちも自ら本を読み、学ぼうとする姿が見られた。 ・「これはどこに捨てる？」と分別に対する意識が出始め、子どもたち同士で教え会ったりする姿が見られた。 ・環境の問題を教師自身が意識をする良いきっかけとなり、意識することで子どもたちに積極的に伝えることができた。 ・野菜や果物、虫のことなど自分たちの身の回りにあるものについて伝えていくことが環境教育につながるのだということが、改めてわかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・水を出しっぱなしにしていると、もったいないよということを子どもたち同士で声かけする姿が見られた。 ・小さな生き物を優しく、触ったり、お世話をしたりする姿が見られ、小さな生き物の命を大切にする気持ちが育ったように思う。
	<p>○4歳児など、まだ入園生活に慣れていない子どもは手を洗う時に水を出しっぱなしにしていることもあり、教師や5歳児が教えているがなかなか身に着けられない様子だった。もったいないばあさんの絵本の読み聞かせなどを聞くと、自分で意識して水を止めている姿が見られるようになってきた。 ○自然の生き物も、皆のために役立っているということや、そんな生き物が生活しやすいきれいな地球にするために、「どこにでもごみを捨てない」など、一人一人がどんなことをすればいいのか考えるきっかけになった。</p>
公立保育所	<p><もったいないばあさん>…給食の時に「もったいない」という言葉が子どもたちから出たり、残さず食べようとする姿が増えてよかった。 <ちきゅうがうんちだらけにならないわけ>…うんちを題材にしたもので、内容的に子ども達の興味がある絵本だった。普段目にする事のない生き物の紹介もあり、楽しく見る事が出来た。子どもたちの中で「うんちはきたないもの」という考え方だったのが、地球のためになっているという新しい気付きが出来てよかった。 <みずのつぶがあつまると>…雨が降ることは子どもたちも体験から知っていたが、降った雨がどうなるのかということが分かり、楽しく仕組みを知ることが出来。手を洗う時など水を大切にしようとする姿が出てきた。○絵本の読み聞かせを通して、環境についての疑問や新しい知識を知ることが出来てよかった。絵本を読むことで、子どもたちもイメージがしやすく楽しく知ることが出来てよかった。</p>
	<p>子どもたちが絵本を通して、環境や食べ物、人と動物のつながりなどを考えることができ良かったです。「食べ物は大切にね」と言葉で伝えるよりも、絵本を見ることでイメージがわかりやすく、子どもたちに、より伝わっているように感じました。絵本を読み聞かせていますが、これからも環境について伝えたいときは、絵本を活用し、子どもたちと一緒に考えていきたいと思います。</p>
	<p>こういった取り組みにより、子ども達が無理なく環境問題にふれたり、興味を持つことができると思いました。今、この年齢の時に「環境問題」といったことは理解するのは難しいと思いますが、身近な絵本や紙芝居といったものを通して、「あの時、こんな絵本があったな。あれと同じだな。」といったことを思うことで、つながっていくと思うので、これからも続けていけるといいと思います。</p>
	<p>絵本を通して、物を大切にする気持ちが育ったり、生活の中で大切にしないといけないものに気づくなどの姿がみられるようになったと感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしがぼくがちきゅうのためにできる10のこと」は、「水がでてたら止める」、「ごみを分別する」など絵本を通して、大事にすることを伝えていっています。絵本を読んだ後は、「水でてたよー」と止める姿が見られました。継続して読んでいく事で、少しずつ子どもたちに身につくことができたらと思います。 ・ありやクラスで飼育しているざりがには、子どもたちに身近なものということもあり、卵が生まれると、本を開いてみて、友だちと調べてみたりとする姿が見られました。興味や関心を自分たちから持っていてほしいです。

私立幼稚園	<p>本園は、絵本、紙芝居の読み聞かせに力を入れています。毎年、環境月間は、環境に関する絵本、紙芝居を沢山子どもたちに読み聞かせる様心がけています。コロナ禍の中ですので防止対策を徹底しながら、今年度も絵本の設置のし方や選定、読み聞かせ方等より良いものと考え実施した事は、有意義でした。</p>
	<p>環境月間中は、特に力を入れて環境に関する絵本や紙芝居を子供たちに沢山読み聞かせました。コロナ禍ですので防止対策を十分考えながら行いコーナーの設置のし方、絵本の選定、読み聞かせ方等を話し合い充実した時間が過ごせたと思います。</p>
認可保育園等	<p>3歳児、4歳児、5歳児で紙芝居の読み聞かせを行った。特に年中、年長は紙芝居の内容に興味を持ち、電気のスイッチをきるようになったり、お水を出しっぱなしになっていることに気付いたり「もったいないよ」と子ども同士で声をかける姿が見られた。</p> <p>・各クラスで年齢に応じた絵本の読み聞かせを行っていきました。身近な自然についての絵本では、あまり知る事のない、土について(つちづくり)にわづくり)や海の中について(うみのそこたんけん)、四季の移り変わり(うさぎのニコラス/夏がきた)等について見て感じているようでした。絵本の中で環境破壊へと繋げられる内容も多くあり、自分達でできることを知らせていくことが出来ました。</p> <p>・感染症対策で図書の貸し出しは控えていますので、毎月の絵本についての新聞、図書室窓から保護者に向けて環境月間についてや図書について掲示を行う事で家庭でも環境に目を向けるきっかけになると感じました。</p> <p>・絵本や紙芝居を通して様々な環境について知ることが出来た。その中でも、クマさんのあさがおという紙芝居は、園庭であさがおを育てているため、一人一人が興味津々にみて、水をあげる大切さ、あげすぎはダメなど知ることが出来た。</p> <p>・月齢や年齢に合わせて、内容の分かりやすい本を選んで読み聞かせを行った。季節や食べ物の天気など絵本のイラストに合わせて、読み方(声の大きさ、テンポ、問いかけ)を工夫することで、一人一人が興味をもって聞くことが出来た。今後も豊かな感性を育てていただけるように、数多く絵本を紹介していただけたらと思う。</p>
地区公民館	<p>「プラスチックのうみ」の読み聞かせでは、いろいろなプラスチック製品を見せた後、「これらがどこにあるお話でしょう」と呼びかけて読み聞かせを行った。お話を聞いてくれた人たちは、熱心に耳を傾けてくれた。そして「魚がかわいそう」「みんなが捨てないようにせんと」とつぶやいていました。また「くれよんのくろくん」や「そらまめくんのベッド」を楽しそうに聞いていた。「もりはみんなのたからもの」は、森は人間のものではなく、動物みんなの宝物だと分かったようだ。</p>
こどもルーム	<p>・読み聞かせのボランティアさんも環境月間に合わせて絵本を選んでくれたようだった。</p> <p>・環境月間に合わせて、事前に環境関連図書コーナーを作ったことで、親子で一緒に読む姿が見られた。</p> <p>・読み聞かせの対象が0～2歳の子ども達と保護者なので子ども達が楽しめるものを選んで読み聞かせをし、保護者に環境月間のことを伝えた。</p> <p>0・1・2歳と年齢が小さいので、本選びが難しいが、なるべく身近な環境(自然など)に関連するようなものにした。「環境関連図書を集めたコーナー」を作ることで、保護者が手に取り、見てくれたり、親子で見てくれたりする姿が多く見られた。</p> <p>・環境絵本コーナーを設置し、利用者に紹介しました。・職員の読みきかせの活動も行い、環境月間ということを発信しました。・利用者の月齢が低いので、母親を通して自然環境、資源の大切さを理解してもらうように声かけをしました。</p> <p>・環境問題をテーマにした絵本は、内容が少し難しいので、年齢が高い子どもが来所してくれているときに読むようにした。・「環境ブック一覧」があるおかげで、絵本選びの参考になって良かった。</p>
読み聞かせボランティア	<p>対象年齢が幼く、内容的なことは理解出来ていないと思いますが、保護者が子供に話してやることで、新たな意識づけのきっかけになっているように感じられ、とても良いことだと思えます。</p>